

相手ゴールに襲い掛かる印出。2
トップを組んだ原も「やりやすか
った」とコメント。攻撃の起点と
なり輝きを放った
(撮影・川崎篤彦)



KOMAZAWA × 中央大学

中大に大勝！首位をキープ！！

**不安払拭！誰がでても
戦えるチームを証明**

赤嶺、巻、鈴木亮、笹岡といった主力選手が出場停止という状況下での試合。この試合をどう乗り切るのかが心配されたが、そんな下馬評などは関係なかった。寧ろ「代わり」とされた4選手の活躍の舞台となったのだ。
26分、GKの弾いたこぼれ球を宮崎が押し込み先制点を上げると、そこから駒大のゴールラッシュが始まる。30分に印出が公式戦初ゴールを上げ、34分には、相手ゴールを奪った赤尾からパスを受けた宮崎が鮮やかにゴールネットを揺らす。後半に入ってもその勢いは衰えず田谷、原のゴールで圧勝。

正に「代わり」の4選手がチームに勝利を手繰り寄せた。印出は、ゴールを決めたただ結果を残しただけではない。最後までがむしやらに走り続け、チームに活力をも与えた。「代わり」ということで自分の中で整理をつけるのが難しかった」と洩らすように「代わり」とされることには皆、複雑な思いがあったに違いない。だが、「やるしかない」印出と得たチャンスを物にし、チームの勝利の為に戦い抜いた。これには、秋田監督も「みんなチャンスだと思っていたし、それがいい方向にでた。印出も赤尾も宮崎も田谷も頑張った」と評価。『誰が出ても戦えるチーム』を証明して見せた。また、長いリーグ戦では誰が出ても戦えることはチームにとって大きな武器である。

課題は、要らない失点。この試合では、中大に右サイドから速い展開で崩されゴールを許している。やや中盤が前がかりになり、守備が手薄になった所を突かれあっさり決められた。秋田監督も「守り方を練習していたが焦っていた」とこの失点を悔やんだ。負けている相手がゴールに迫りくるのは当然。その中でいかにゼロに抑えるかが常勝駒大への力ギとなりそうだ。「まだまだこれからDF面は伸びる」と断言した秋田監督。今後の成長ぶりが楽しみだ。

(伊藤 優香)